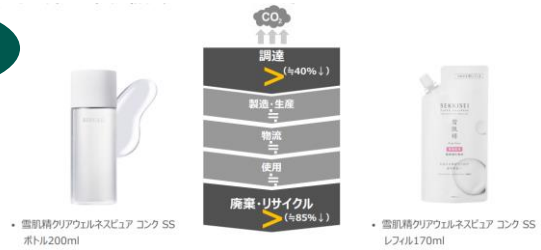
# 令和４年度モデル事業の概要

■令和４年度のモデル事業では4社を選定し、対象製品に係るCFPの算定等を実施

| | 株式会社コーセー | 東京吉岡株式会社 | 明治ホールディングス株式会社 | 株式会社ユナイテッドアローズ |
|---|---|---|---|---|
| 対象製品・サービス | 雪肌精 クリアウェルネス ピュア コンク SS | 循環型リサイクルポリエチレン袋 | 明治ミルクチョコレート50g | グリーンレーベル リラクシング「クルーネック半袖カットソー」 |
| 対象企業（応募パターン） | 単独 | 単独 | 単独 | 複数企業で連携（応募時は単独だったが、複数企業で連携して算定） |
| 実績（一例） |   レフィル容器はボトル容器に比して、調達と廃棄・リサイクル段階において$CO_2$排出量に優位性が認められた | 東京ビッグサイトでの展示また、WEBサイト、展示会などで販促広報も展開 | チョコレートの$CO_2$排出のホットスポット（多く$CO_2$を排出するプロセス）を定量化し、社内の$CO_2$削減策を数値に基づき強力に推進することが可能に | 店頭POP等により、Carbon Neutralityに向けた活動として取組を発信 |

出典：脱炭素経営フォーラム(2022年度版)における各社公表資料　https://www.env.go.jp/earth/datsutansokeiei.html

# 令和４年度モデル事業での取組　-株式会社ユナイテッドアローズ-

環境省

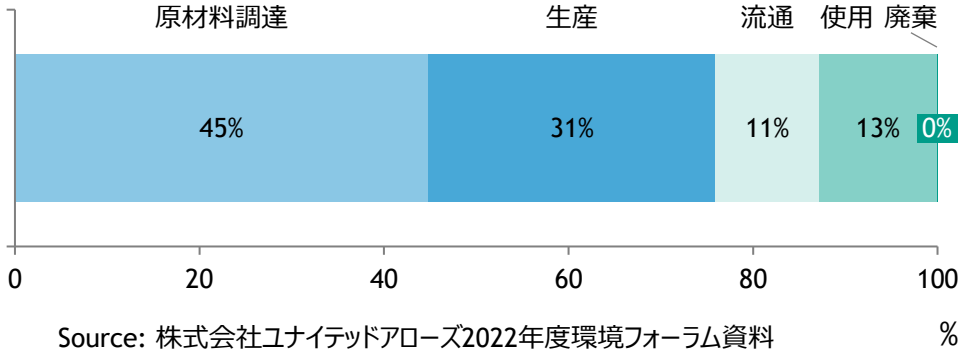
■ CFPの取組自体をブランディングとして活用。また、GHG排出削減に向けて、自社だけでは実現できず、サプライヤー・消費者の協力の必要性も定量的に明確にされた

## 選定商品

ユナイテッドアローズ グリーンレーベル リラクシング
「クルーネック半袖カットソー」

## CFP算定結果

CFP：10.6476kgCO2-eq




Source: 株式会社ユナイテッドアローズ2022年度環境フォーラム資料

## CFP活用策

### ブランディング

- SARROWS ~ Carbon Neutrality に向けた活動として**CFP算定の取り組みをアピール**

### GHG排出量削減

- 自社・サプライヤーで実現可能な削減施策の検討により、削減効果を定量化（27%のCFP削減）
- 消費者の行動変容も、CFP削減には必須であることが明確になった
  - お客様への情報提供を検討

# 令和４年度モデル事業での取組　-東京吉岡株式会社-

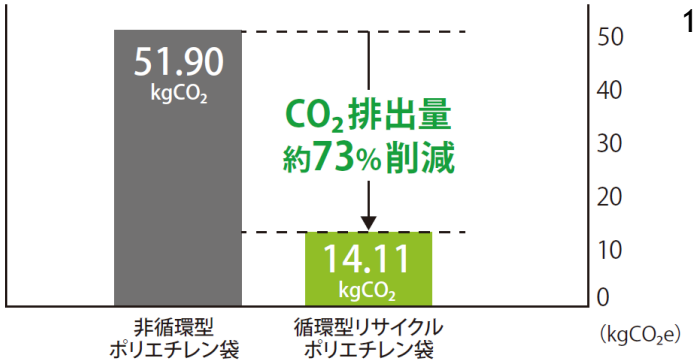
環境省

■ ”サステナビリティ”を数値化・公開したことで、B2Bのビジネスにおいても他社との差別化・販売促進にCFPが貢献している

## 選定商品

「循環型リサイクルポリエチレン袋」

## CFP算定結果




Source: 東京吉岡株式会社2022年度環境フォーラム資料; ヒアリング

## CFP活用策

**ブランディング**

- CFPによりGHG排出削減量を定量化できたことで、顧客企業に対してScope3削減を定量的に訴求可能に
  - ”引き合いが多く、CFPの効果を実感している”（東京吉岡ご担当者）
- WEBサイト、展示会などで販促広報を展開

WEBサイトで算定報告書を公開

展示会

- モデル事業で得た知見を元に、CFPへの取り組みを継続的に実施

# 令和４年度モデル事業での取組　-株式会社コーセー-

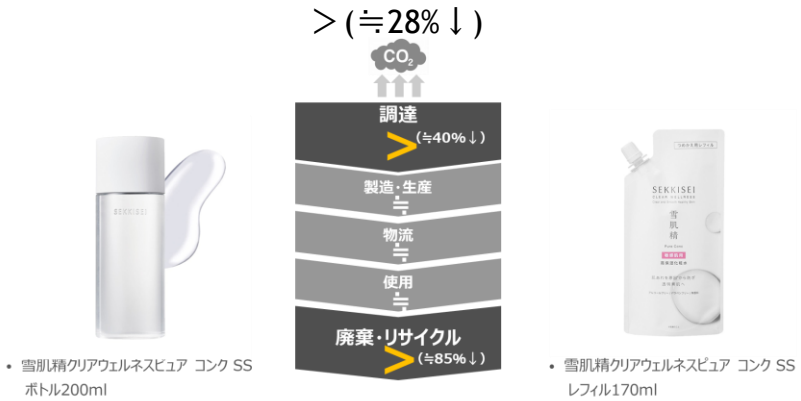
環境省

■あいまいだった「レフィルの環境負荷低減効果」を可視化。加えて、様々なGHG削減施策のインパクトを定量化でき、削減戦略に活用可能に

## 選定商品

「雪肌精 クリアウェルネス　シリーズ」

## CFP算定結果




## CFP活用策

### GHG排出量削減

- CFPの取組により、GHG排出量が定量化されることで、どのプロセスでどれぐらい排出されたのかが可視化
  - 施策による削減インパクトの大小が定量的にわかるようになり、削減戦略に活用可能
- 算定の一次結果を基に、算定の精緻化や環境配慮型原料・材料開発など、**バリューチェーン全体で削減施策の実施検討**

| | 原材料調達 | 製造生産 | 輸送・販売 | 使用 | 廃棄・リサイクル |
|---|---|---|---|---|---|
| 具体施策例 | •低炭素原料の開発<br>•バイオマス/リサイクル材料の採用拡大<br>•活動量/原単位の精緻化 | •省エネ設備の導入<br>•水素など革新的技術の活用 | •輸送効率の向上<br>•折りたたみコンテナ使用 | •お客さまにCO2削減につながる情報提供を行う | •容器回収 |

### ブランディング

- お客さまが脱炭素に貢献する商品を選択するための情報についても発信を検討

Source: 株式会社コーセー2022年度環境フォーラム資料、コーセープレスリリース（2023年ｘ月x日）

# 令和４年度モデル事業での取組　-明治ホールディングス株式会社-

環境省

■ CFPの算定により、当初想定していた海外産カカオ豆のフードマイレージ(輸送)よりも、カカオ豆そのもののGHG排出量が大きいことが判明。
既に取り組んでいるカカオ産地での取組を、今後も優先的に継続・拡大することに

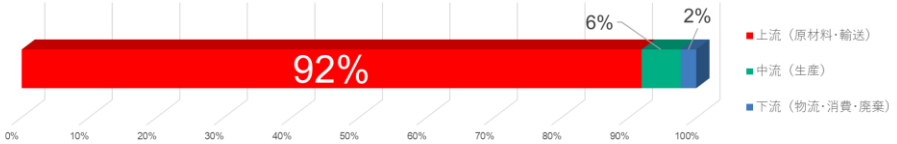
## 選定商品

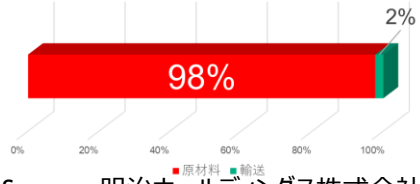
「明治ミルクチョコレート50g」

## CFP算定結果

海外産カカオ豆のフードマイレージ(輸送)が大きいと考えていた
だが、**カカオ豆の排出量が非常に大きい**と判明

- カカオ豆の排出係数が非常に大きい




Source: 明治ホールディングス株式会社2022年度環境フォーラム資料、明治HDホームページ

## CFP活用策

**GHG排出量削減**

- フードマイレージ対策よりも、**自社が調達しているカカオ豆の実態に則した排出係数**の算出、**カカオ産地での取組継続・拡大**がより重要であることが判明
  - カカオ豆の排出係数の削減に向けては、以下の２つがポイントとわかった
    - ① 森林伐採に関与していないカカオ豆の調達を推進
    - ② カカオ豆の単位面積当たりの収穫量の向上
  - **既に上記に対応するカカオ産地での取組**を進めてきており、この取組を継続・拡大すると共に、実態を反映した排出係数の算定を将来的には行いたい
    - 明治独自のカカオ農家支援活動「メイジ・カカオ・サポート」の実施
    - 2026年度までに「明治サステナブルカカオ豆」の調達比率100%に向けて調達活動を推進

- 加えて、消費者の環境に配慮した消費促進への対応を検討